



(様式第9)

北里病発第 号
平成21年10月 1日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 北里研究所 北里
理事長 柴 忠

北里大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成20年度の業務に関して報告します。
記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	141 人
--------	-------

- (注) 前年度の研修医の実数を記入すること。
- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業員の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数	
医 師	501人	134人	521.0人	看護業務補助	58.6人	診療エックス線技師	0人	
歯科医師	1人	3人	1.3人	理学療法士	13.3人	臨床 検査	臨床検査技師	108人
薬 剤 師	49人	1人	49.5人	作業療法士	5人		衛生検査技師	1人
保 健 師	6人	0人	6.0人	視能訓練士	10人		そ の 他	0人
助 産 師	27人	0人	27.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人	
看 護 師	977人	56人	999.0人	臨床工学技士	32.8人	医療社会事業従事者	8人	
准看護師	3人	0人	3.0人	栄 養 士	1人	その他の技術員	13人	
歯科衛生士	0人	0人	0人	歯科技工士	0人	事 務 職 員	195.6人	
管理栄養士	25人	0人	25.0人	診療放射線技師	64人	そ の 他 の 職 員	81.7人	

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、少数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	814人	0人	814人
1日当たり平均外来患者数	2,587人	0人	2,549人
1日当たり平均調剤数			2120.9剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

1 先進医療の届け出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有(無)	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有(無)	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療(心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。)	有(無)	人
胎児心超音波検査(産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。)	有(無)	人
インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)	有(無)	人
顎顔面補綴(腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。)	有(無)	人
顎関節症の補綴学的治療(顎関節症(顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節板の断裂を除く。)に係るものに限る。)	有(無)	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法(神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。)	有(無)	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	(有)無	0 人
光学印象採得による陶材歯冠修復法(歯冠部齶蝕の修復に係るものに限る。)	有(無)	人
経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下にわるものを含み、椎間板ヘルニアに関わるものに限る。)	有(無)	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定(白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。)	有(無)	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法(手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。)	有(無)	人
CTガイド下気管支鏡検査(肺腫瘍に係るものに限る。)	有(無)	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断(アンチトロンピン欠乏症、第Ⅶ因子欠乏症、先天性アンチトロンピンⅢ欠乏症、先天性ヘパリンコファクターⅡ欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。)	有(無)	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有(無)	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有(無)	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断(頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。)	有(無)	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん(根治度Cの胃がんを除く。)、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有(無)	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断(子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。)	有(無)	人
腹腔鏡下肝部分切除術(肝外側区域切除術を含み、肝腫瘍に係るものに限る。)	有(無)	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有(無)	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)	有(無)	人
成長障害のDNA診断(突発性低身長症に係るものに限る。)	有(無)	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。)	有(無)	人



先進医療の種類	届出受理	取扱患者数
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術(主に乳房温存手術が可能なステージⅠ又はⅡの乳がんに係るものに限る。)	有・無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術(一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。)	有・無	1人
骨髄細胞移植による血管新生療法(閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の治療法に抵抗性もので、フォンタン分類Ⅲ度又は同分類Ⅳ度のものに限る。))に係るものに限る。)	有・無	人
ミトコンドリア病のDNA診断(高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。)	有・無	人
鏡視下肩峰下腔除圧術(透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。)	有・無	人
神経変性疾患のDNA診断(ハンチントン舞踏病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。)	有・無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術(再発翼状片、角膜上皮欠損(角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜癒着(スティーブン・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷癒着その重症の癒着性角膜結膜炎疾患を含む。)、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。)	有・無	人
重粒子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術(原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。)	有・無	人
31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断(糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。)	有・無	人
神経芽腫のRNA診断	有・無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療(腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄使用又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛(保存治療に抵抗性のものに限る。))に係るものに限る。)	有・無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断(BCG副反応症例又は非定型抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。)	有・無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・無	人
膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術(インスリノーマ、脾動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍その他の膵良性腫瘍に係る膵体尾部切除又は核出術に限る。)	有・無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断(マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。)	有・無	人
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)	有・無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。))による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに係るものに限る。)	有・無	人
活性化Tリンパ球移入療法(原発性も若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術(膀胱尿管逆流症(国際分類Vグレードの高度逆流症を除く。))に係るものに限る。)	有・無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術(泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに係るものに限る。)	有・無	人



先進医療の種類	届出受理	取扱患者数
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植 (HLA適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児がん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。)	有・無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術 (頸椎椎間板ヘルニア (画像診断上椎間板繊維輪の破綻していないヘルニアであって、神経根症が明らかであり保存治療に抵抗性のないもの (後縦靭帯骨化症、脊椎管狭窄状態又は脊椎症状のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・無	人
ケラチン病の遺伝子診断 (水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。)	有・無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	人
抹消血幹細胞による血管再生治療 (慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャージャー病 (重篤な虚血性心疾患又は脳血管障害を有するものを除く。))に係るものに限る。)	有・無	人
抹消血単核球移植による血管再生治療 (慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャージャー病 (従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるもの)に限り、三年以内の悪性新生物既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術 (双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例 (妊娠十六週から二十六週に限る。))に係るものに限る。)	有・無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法 (肺がん又は気管支肺がん病変に係るものに限る。)	有・無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断 (ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。)	有・無	人
超音波骨折治療法 (四肢の骨折 (治療のために手術中に行われるものを除く。))のうち、観血的手術を実施したもの (解放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。))に係るものに限る。)	有・無	0 人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテララメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法 (ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。)	有・無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存 (骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性 (欠損性又は感染性偽関節に係るものに限る。)、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人工関節置換術時 (初回又は再置換術に限る。))の広範囲骨欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るものに限る。)	有・無	37 人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術 (難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果が認められないもの)に係るものに限る。)	有・無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価 (骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍掻爬術後若しくは骨髄炎掻爬術後に係るものに限る。)	有・無	人
膀胱水圧拡張術 (間質性膀胱炎に係るものに限る。)	有・無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法 (歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るものに限る。)	有・無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術 (人工股関節のたるみに関わるものに限る。)	有・無	人
腹腔鏡下直腸固定術 (直腸脱に係るものに限る。)	有・無	人
骨移動術による関節温存型再建 (骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るものに限る。)	有・無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション (原発性肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るものに限る。)	有・無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法 (腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍 (食道がん、胃がん又は、大腸がん)、進行性再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がん)に係るものに限る。)	有・無	人



先進医療の種類	届出受理	取扱患者数
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断(EB4ウイルス感染症に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したものに限る。又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器がんから転移したものに限る。))に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
先天性難聴の遺伝子診断(遺伝性による先天性難聴が疑われるものに限る。)に係るものに限る	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断(フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はビオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酸素欠損症に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
培養細胞による先天性代謝異常診断(先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。)に罹患する可能性の高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。)が疑われる小児のかかわるものであって、酸素補充療法による治療が出来ないものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術(手術進行期分類b期までの子宮体がんに係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
RET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
角膜ジストロフィの遺伝子解析(角膜ジストロフィと診断された症例に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍(頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって、原発性のものを除く。))に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。))であって、子宮壁厚十ミリメートルの症例に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査(EGFR陽性の治癒切除不能の進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
光ポトグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助(ICD-10(統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、障害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件(平成二十一年総務省告示第百七十六号)の「(1)疾病、障害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。))においてF2(統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害)に分類される疾病及びF3(気分(感情)障害)に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者(器質的疾患に起因するうつ症状の者を除く。))に係るものに限る。))	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術(下肢慢性静脈不全症(下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴(小白歯の重度の齶蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(早期大腸がん(BMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難に二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。))又は腺種(EMRを実施した際の病変の挙上不良なもの又はEMRを実施した後に遺残又は再発したものであってEMRでは切除が困難に一センチメートル以上の病変のものに限る。))に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人
実物大臓器立体モデルによる手術支援(骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術(頸部良性腫瘍に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
悪性黒色種におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは臼蓋骨折に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	165 人
カフェイン併用化学療法(骨肉種、悪性線維性組織球種、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
胎児尿路・羊水腔シャント術(プルーン・ペリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療(ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(胸部悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
内視鏡下甲状腺がん手術(手術の実施後、予後の良い甲状腺乳頭がんに係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法(転移性腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫(診断の確実なものに限る。))に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法(一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術(特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫(NIHF)例であって、胸腔穿刺後一週間以降に胸水の再貯留が認められるもの(妊娠二十週から三十四週未満に限る。))に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法(二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
腹腔鏡補助下肝切除術(部分切除及び外側区域切除を除く。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援(前立腺がんに係るものに限る。)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人

(注)1「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	118人	・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	110人
・多発性硬化症	77人	・ウェゲナー肉芽腫症	6人
・重症筋無力症	113人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	139人
・全身性エリテマトーデス	691人	・多系統萎縮症	32人
・スモン	0人	・表皮水泡症(接合部型及び栄養障害型)	2人
・再生不良性貧血	51人	・膿胞性乾癬	11人
・サルコイドーシス	92人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・筋萎縮性側索硬化症	8人	・原発性胆汁性肝硬変	43人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	445人	・重症急性膵炎	2人
・特発性血小板減少性紫斑病	152人	・特発性大腿骨頭壊死症	65人
・結節性動脈周囲炎	49人	・混合性結合組織病	88人
・潰瘍性大腸炎	67人	・原発性免疫不全症候群	5人
・大動脈炎症候群	34人	・特発性間質性肺炎	35人
・ピュルガー病	33人	・網膜色素変性症	41人
・天疱瘡	50人	・プリオン病	1人
・脊髄小脳変性症	26人	・原発性肺高血圧症	8人
・クローン病	18人	・神経繊維腫症	8人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	20人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病	155人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	3人
・アミロイドーシス	6人	・ライゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	3人
・後縦靭帯骨化症	23人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	1人	合計	2,836人

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3. 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	<p>① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。</p> <p>② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。</p>	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病院病理部 150回/1年(週3回)	
剖検の状況	剖検症例数 86例	剖検率 11.0%



(様式第 1 1)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
「肺癌の動体追跡放射線治療の臨床研究」	早川 和重	放射線科	80 万	補 科学研究費補助金基盤研究 (A) 白土班
「放射線治療を含む標準治療擁立のための施設共同研究」	早川 和重	放射線科	50 万	補 厚生労働省がん研究助成金 (平岡班)
「がん診療あるいは治療ガイドラインの公益性を目的とした公開のための体制作りに関する研究」	早川 和重	放射線科	30万	補 厚生科学研究費補助金第三次がん総合戦略研究事業 (若尾班)
				委 補
			万	委 補
			万	委 補
			万	委 補
			万	委 補
			万	委 補
			万	委 補
			万	委 補

(放射線計 3 件)



(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
急性高度難聴に関する調査研究	岡本 牧人	耳鼻咽喉科	100 万	補 厚生労働省 委
下咽頭癌の浸潤転移を規定する既存・新規分子の発現と予後との関連性	中山明仁	耳鼻咽喉科	100 万	補 文部科学省 委
扁桃における糖鎖不全IgA産生メカニズムの解明	伊藤昭彦	耳鼻咽喉科	140 万	補 文部科学省 委
モルモット咽頭粘膜および輪状咽頭筋におけるニューロペプチドの動態に関する研究	横堀 学	耳鼻咽喉科	20 万	補 文部科学省 委
ヒアルロン酸・コラーゲン混合シートによる損傷声帯での狭窄、癒痕化防止の試み	清野由輩	耳鼻咽喉科	60 万	補 文部科学省 委
			万	補 委
			万	補 委

(耳鼻咽喉科計 5件)

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
胃癌の腹腔洗浄細胞遺伝子診断陽性例における術後補助化学療法の効果に関する検討	渡邊昌彦	外科	100万	補(財)がん集学的治療研究財団 第28回一般研究助成
大腸癌の発生、進展および治療感受性に関わる因子の解析	渡邊昌彦	外科	130万	委科学技術振興機構 (戦略的創造研究推進事業)
再発高危険群の大腸がんに対する術後補助療法の確立に関する研究	渡邊昌彦	外科	100万	補厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
大腸癌肝転移切除後患者様を対象としたフルオロウラシル/Iーロイコボリンとオキサリプラチン併用補助化学療法(mFOLFOX6) vs. 手術単独によるランダム化II/III相試験	渡邊昌彦	外科	20万	補厚生労働省がん臨床研究事業
進行大腸がんに対する腹腔鏡下手術の根治性に関する比較研究	渡邊昌彦	外科	150万	補厚生労働科学研究費補助金(効果的医療技術の確立推進臨床研究事業)
大腸がん肝転移症例の術後補助化学療法に関する研究	佐藤武郎	外科	79万8千	補厚生労働省がん臨床研究事業
進行大腸がんに対する低侵襲治療法の確立に関する研究	佐藤武郎	外科	75万	補厚生労働省がん臨床研究事業
コラーゲン合成制御によるスキルス胃癌間質の線維化、硬化抑制に関する基礎的研究	菊池史郎	外科	70万	補文部科学省(基盤研究C)
肝疾患患者のQOLおよび予後延長に寄与する因子の検討	古田一徳	外科	13万5千	委(財)かながわ健康財団

(外科計 9件)



(様式第 1 1)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
眼優位性定量装置の開発と弱視治療への応用	半田知也	眼科 (医療衛生学部)	78 万	補 文部科学省 科学研究費 委
遮閉および眼位が眼優位性に及ぼす影響	新田任里江 (現：鈴木)	眼科 (医療衛生学部)	169 万	補 文部科学省 科学研究費 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委

(眼科計 2件)

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
微乳頭腺構造を有する肺腺癌をモデルとした癌浸潤・転移メカニズムの解析	佐藤 之俊	呼吸器外科学	130 万	補 独立行政法人 日本学術振興会
肺癌個別化医療に向けたリンパ節転移予測診断システムの構築	伊豫田 明	呼吸器外科学	130 万	補 独立行政法人 日本学術振興会
急性循環障害時におけるトロンボキサンA2の血管新生増強メカニズムの解析	天野 英樹	呼吸器外科学	150 万	補 独立行政法人 日本学術振興会
肺大細胞神経内分泌癌における分子標的マーカーの発現解析	佐藤 之俊	呼吸器外科学	100 万	補 厚生労働省がん 研究助成金
病態時の脈管動態の分子基盤と治療への応用	天野 英樹	呼吸器外科学	50 万	補 文部科学省「ハイ テク・リサーチ・ センター整備事業 部」
病態時の脈管ダイナミックスを制御する骨髄由来血管内皮増殖因子1型受容体(VEGFR-1)発現細胞の役割解析と治療応用への基礎的検討	佐藤 之俊	呼吸器外科学	500 万	補 北里大学 教員プロジェクト 研究

(呼吸器外科計 6件)

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
難治性疾患克服研究事業 特発性心筋症に関する 調査研究	和泉 徹	循環器内科	110万	(補) 厚生労働省 委
循環器病研究委託事業 心サルコイドーシスの 病態診断と治療に関する 研究	和泉 徹	循環器内科	100万	補 (委) 国立循環器 病センター
循環器疾患等生活習慣 病対策総合研究事業 ヒスタミンと心不全の 関連についての検討- H2-レセプターブロッカ ーは心不全を改善する か	和泉 徹	循環器内科	100万	(補) 厚生労働省 委
心不全・心筋症の免疫 学的発症機構の解明と その臨床応用	猪又孝元	循環器内科	1000万	(補) 車両財団公 益資金祈念財団 委
重症虚血肢に対する PUVA療法の有効性につ いての検討	東條大輝	循環器内科	50万	(補) 独立行政法 人日本学術振興会 委

(循環器内科計 5件)

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第 1 1)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
川崎病の病態究明と新しい治療法の開発：DNAマイクロアレイを用いた検討	緒方昌平	小児科学	30 万	補 文部科学省 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委

(小児科計 1件)

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
早期消化管がんに対する内視鏡的治療の安全性と有効性の評価に関する研究-粘膜下層浸潤臨床病期I (TINOMO) 食道がんに対するEMR/化学放射線療法併用療法の有効性に関する第II相試験:「JCOG0508」班	田邊 聡	消化器内科	40万円	補助元 厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業
気道食道領域がんのリスクとアルコール代謝酵素との関連性とその臨床評価に関する研究班	堅田親利	消化器内科	80万円	補助元 厚生労働省がん研究助成金計画研究
拡大内視鏡による消化器癌の早期診断法の確立に関する研究班	堅田親利	消化器内科	40万円	補助元 厚生労働省がん研究助成金計画研究
切除不能胆道がんに対する治療法の確立に関する研究	木田光広	消化器内科	15万円	補助元 厚生労働省がん臨床研究事業

(消化器内科計 4件)

[注]

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第 1 1)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
自殺企図の再発防止に対する複合的ケース・マネジメントの効果：多施設共同による無作為化比較研究	山本賢司	精神神経科	140万	補 厚生労働省
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委

(精神神経科計 1件)

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第 1 1)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
ヒト皮膚毛包幹細胞を用いた末梢神経・脊髄損傷の修復と再生	天羽 康之 勝岡 憲生	皮膚科	500万	補 2007-2009年度北里大学共同研究(AKPS) 委
ヒト頭部皮膚由来毛包幹細胞を用いた神経障害を伴う損傷皮膚の再生	天羽 康之	皮膚科	130万	補 2008-2010年度日本学術振興会科学研究費補助金(若手研究B) 文部科学省 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委
			万	補 委

(皮膚科計 2件)

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第 1 1)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
中枢神経ループスにおける抗神経細胞抗体の解析	廣畑 俊成	膠原病感染内科	150 万	補 文部科学省 委
ベーチェット病に関する調査研究	廣畑 俊成	膠原病感染内科	80 万	補 厚生労働省 委
シェーグレン症候群の実態調査	廣畑 俊成	膠原病感染内科	70 万	補 東京都 委 福祉保健局
強皮症における病因解明と根治的治療法の開発	遠藤 平仁	膠原病感染内科	110 万	補 厚生労働省 委
混合性結合組織病の病態解明と治療法の確立に関する研究	岡田 純	膠原病感染内科	130 万	補 厚生労働省 委
関節リウマチの骨髄における発現遺伝子の解析	橋本 篤	膠原病感染内科	80 万	補 文部科学省 委
			万	補 委
			万	補 委

(膠原病感染内科計 6件)

研究費補助等の実績総合計 44件

- [注] 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eur J Gynaecol Oncol 29: 222-224, 2008	Phase II study of radiation therapy combined with weekly nedaplatin in locally advanced uterine cervical carcinoma (LAUCC): Kitasato Gynecologic Radiation Oncology Group (KGROG0501) - initial analysis.	新部 譲	放射線科
Anticancer Res 28: 3929-3931, 2008	Value of high-dose radiation therapy for isolated osseous metastasis in breast cancer in terms of oligo-recurrence.	新部 譲	放射線科
臨床放射線 53: 1127-1131, 2008.	局所進行子宮頸癌に対するnedaplatin 同時併用放射線療法の第II相試験 (KGROG0501): 初期15例の解析結果.	新部 譲	放射線科
頭頸部癌 34: 352-354, 2008.	T2N0声門癌に対する化学放射線療法の意義.	新部 譲	放射線科
北里医学 38: 117-119, 2008.	再発/転移癌へのあらたな治療戦略: oligometastasesとoligo-recurrenceの立場から.	新部 譲	放射線科

(放射線計 5件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Radiother Oncol, 87(3): 398-404, 2008. Epub 2008 Apr 9	A phase I trial of definitive chemoradiotherapy with docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil (DCF-R) for advanced esophageal carcinoma: Kitasato digestive disease & oncology group study (KDOG 0501).	早川 和重	放射線科
Biomed Pharmacother, in press, 2008	Blockade of an Angiotensin Type I Receptor Enhances Effects of Radiation on Tumor Growth and Tumor-associated Angiogenesis by Reducing Vascular Endothelial Growth Factor Expression.	早川 和重	放射線科
Eur. J. Gynaec. Oncol. 29(3): 222-224, 2008.	Phase II study of radiation therapy combined with weekly nedaplatin in locally advanced uterine cervical carcinoma (LAUCC): Kitasato Gynecologic Radiation Oncology Group (KGROG 0501) - initial analysis.	早川 和重	放射線科
Jpn J Clin Oncol. 38(7):469-473, 2008 Jul; Epub 2008 Jun 23.	Four-year experience of interstitial permanent brachytherapy for Japanese men with localized prostate cancer.	早川 和重	放射線科
Radiother Oncol. 89(2):214-216, 2008 Nov; Epub 2008 Aug 11.	Inter-software variability in post-implanted CT analysis for interstitial permanent brachytherapy for prostate cancer: differences in automatically detected seed location.	早川 和重	放射線科
Radiat Med. 26(8):512-515. Epub 2008 Oct 31. Erratum in: Radiat Med. 26(10):636, 2008 Dec.	Needle position during (125)I seed implantation: accurately recognized by sagittal transrectal ultrasonography [corrected].	早川 和重	放射線科

Int J Clin Oncol. 123(11):2480-2486, 2008 Dec 1.	EGFR genetic heterogeneity of nonsmall cell lung cancers contributing to acquired gefitinib resistance.	早川 和重	放射線科
臨床放射線, 53(9):1127-1131, 2008.	局所進行子宮頸癌に対する nedaplatin 同時併用放射線療法 の第 II 相試験 (KGROG0501) : 初期 15 例解析結果.	早川 和重	放射線科
頭頸部癌, 34(3):352-354, 2008.	T2N0 声門癌に対する化学放射線療法 の意義.	早川 和重	放射線科
Anticancer Res. 28(6B):3929-3931, 2008 Nov-Dec.	Value of high-dose radiation therapy for isolated osseous metastasis in breast cancer in terms of oligo-recurrence.	早川 和重	放射線科
Int J Clin Oncol. 14(1):53-55, 2009 Feb; Epub 2009 Feb 20.	Interactive-plan technique conquers the disadvantages of volume-reducing hormone therapy in (125)I permanent implantation for localized prostate cancer.	早川 和重	放射線科
Kitasato Med J, 39(1):13-17, 2009.	Asymmetrical position of the fornices with reference to mamillary bodies: magnetic resonance image observation.	早川 和重	放射線科

(放射線科 6 件)

(放射線科合計 17 件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること (当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Kitasato Medical Journal	Possibility of the participation of foreign antigenic structure with aberrantly glycosylated IgA1 to the onset of IgA nephropathy and Henoch-Schönlein purpura	伊藤昭彦	耳鼻咽喉科
J Laryngol Otol.	Laryngeal chondritis induced by C3-4 osteophyte following supracricoid laryngectomy with cricohyoidoepiglottopexy	清野由輩	耳鼻咽喉科
International Tinnitus Journal	Atherosclerotic change as the background with peripheral vestibular disorders	和田昌興	耳鼻咽喉科
北里医学	頭頸部悪性腫瘍における Multidetector-row CT の有用性.	中山明仁	耳鼻咽喉科
日本気管食道科学会誌	気道をほぼ閉塞していた幼児喉頭玩具異物の1例	猪 健志	耳鼻咽喉科
Audiology Japan	補聴器適合の過程.	岡本牧人	耳鼻咽喉科
日本気管食道科学会誌	声帯ポリープに混在した声帯嚢胞の1症例.	落合 敦	耳鼻咽喉科
Audiology Japan	中等度難聴の早期診断、早期療育における新生児聴覚スクリーニング検査の有用性	井上理絵	耳鼻咽喉科
Gastroenterological Endoscopy	頭頸部領域における内視鏡観察のコツ.	堅田親利	耳鼻咽喉科
日本気管食道科学会誌	気道・食道異物の診断と治療 気道・食道異物の診断と治療 耳鼻咽喉科医の立場から	正来 隆	耳鼻咽喉科
日本耳鼻咽喉科感染症誌	急性中耳炎診療に対する耳鼻咽喉科医・小児科医の意識調査-相模原エリアでのアンケート結果から	鈴木立俊	耳鼻咽喉科

(耳鼻咽喉科 11件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Diseases of the Colon & Rectum	Tumor Budding as an Index to Identify High-Risk Patients with Stage II Colon Cancer	Takatoshi Nakamura	外科
Anticancer Research	Lymph Node Metastasis Density (ND)-factor Association with Malignant Degree and ND40 as "Non-curative" in Gastric Cancer	Keishi Yamashita	外科
Pharmacother	Treatment of advanced or recurrent colorectal cancer with irinotecan in Japan and elsewhere	Takeo Sato	外科
Anticancer Research	Diminishing Impact of Preoperative Carcinoembryonic Antigen (CEA) in Prognosis of Dukes' C Colorectal Cancer	Hiroshi Kato	外科
Jpn J Clin Oncol	Phase II Trial to Evaluate Laparoscopic Surgery for Stage 0/1 Rectal Carcinoma	Seiichiro Yamamoto	外科
Oncology Reports	Liver metastasis of colorectal cancer by protein-tyrosine phosphatase type 4A, 3 (PRL-3) is mediated through lymph node metastasis and elevated serum tumor markers such as CEA and CA19-9	Kazuhiko Hatade	外科

(外科計 6件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
World Journal of Surgery	Risk Factors for Wound Infection after Surgery for Colorectal Cancer	Takatoshi Nakamura	外科
Clinical Translational Research	A New Formula for Predicting Liver Metastasis in Patients with Colorectal Cancer: Immunohistochemical Analysis of a Large Series of 439 Surgically Resected Cases	Hiroki Ochiai	外科
World J Surg	Surgical Resection of Stage IV Colorectal Cancer and Prognosis	Hiroshi Kato	外科
Anticancer Reserach	Value of High-dose Radiation Therapy for Isolated Osseous Metastasis in Breast Cancer in Terms of Oligo-recurrence	Yuzuru Niibe	外科
Hepato-Gastroenterology	Urinary Trypsin Inhibitor Improves Viability of the Liver in Brain -- Dead Rats	Koichi Itabashi	外科
Anticancer Research	A New Diagnostic Method for Early Gastric Cancer: Volume Measurement by 3-Dimensional Endoscopic Ultrasonography in Early Gastric Cancer and Its Clinical Significance	Nobue Futawatari	外科

(外科計 6件)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hepato-Gastroenterology	Strong Association of Lymph Node Metastasis with Intraperitoneal Free Cancer Cell (IFCC) in Advanced Gastric Cancer	Keishi Yamashita	外科
日本内視鏡外科学会雑誌	本邦における直腸癌に対する腹腔鏡下手術の現況－腹腔鏡下大腸切除研究会多施設共同研究－	中村隆俊	外科
大腸がん改訂3版	6. 大腸がんの治療と成績 2) 結腸がんの手術療法	渡邊昌彦	外科
日本臨床外科学会雑誌	酢酸オクトレオチド投与が奏効しQOLが著しく改善した終末期患者の1例	内藤正規	外科
日本臨床外科学会雑誌	進行胃癌術後に補正困難な低ナトリウム血症で発症した癌性髄膜炎の3症例	内藤正規	外科
消化器癌の外科治療	炎症性腸疾患と癌	小澤平太	外科

(外科計 6件)



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床外科学会雑誌	腹腔鏡下に手術したpagetoid spreadを伴う肛門管癌の1例	小野里航	外科
日本消化器外科学会雑誌	逆流性食道炎による癒痕性狭窄に対し腹腔鏡下手術が有効であった1例	二渡信江	外科

(外科計 2件)



2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The Kitasato Medical Journal	Evaluation of factors that affect near vision in pseudophakic eyes	Hiroko Kasuga	北里大学眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci	Three-Dimensional Imaging of Trabeculectomy Blebs Using Swept-Source Optical Coherence Tomography	Nakanishi M	北里大学眼科
眼科ケア	眼科検査よみかた入門“眼底写真撮影の結果のみかた”	永野幸一	北里大学眼科
あたらしい眼科	嚢内眼内レンズの前房中脱臼	山根史佳	北里大学眼科
眼科臨床紀要	不同視弱視の眼優位性に影響する因子の検討	伊藤美沙絵	北里大学眼科
あたらしい眼科	有水晶体眼内レンズとLASIKの比較	神谷和孝	北里大学眼科
眼科臨床紀要	遠見立体視検査におけるdefocusの影響について	中山奈々美	北里大学眼科
American Journal of Ophthalmology	Effects of antiglaucoma drugs on refractive outcomes in eyes with myopic regression after laser in situ keratomileusis	Kamiya K	北里大学眼科
眼科臨床紀要	不同視弱視の眼優位性に影響する因子の検討	庄司信行	北里大学眼科
医学のあゆみ	波長走査型光干渉断層計(SS-OCT)	庄司信行	北里大学眼科

(眼科計 10件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床眼科	急性網膜壊死	永野幸一	北里大学眼科
眼科ケア	眼科検査よみかた入門、蛍光眼底写真の結果のよみかた	永野幸一	北里大学眼科
IOL&RS	あたらしい眼内レンズ挿入器:ビスコフリー・プリセット・インジェクター	清水公也	北里大学眼科
IOL&RS	屈折矯正手術後の白内障手術	飯田嘉彦	北里大学眼科
眼科	一般講演「視力・収差」	魚里博	北里大学眼科
眼科	一般講演「視機能(2)」	清水公也	北里大学眼科
あたらしい眼科	睡眠不足による疲労時の調節機能への影響	榊田浩三	北里大学眼科
あたらしい眼科	過矯正が調節微動日内変動に及ぼす影響	中山奈々美	北里大学眼科
日本眼感染症学会誌	術後眼内炎の予防・治療に関する基礎医学的根拠のひとつとしてのPAE・PASME	坂本則敏	北里大学眼科
日本眼科学会雑誌	眼鏡, laser in situ keratomileusis, 有水晶体眼内レンズが空間周波数特性および網膜像倍率に及ぼす影響	神谷和孝	北里大学眼科

(眼科計 10件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本眼科学会雑誌	眼内レンズによるモノビジョン法の視機能と満足度評価	伊藤美沙絵	北里大学眼科
Optics Letters	Fourier domain optical coherence tomography using optical demultiplexers imaging at 60,000,000lines/s	Motoi nakanishi	北里大学眼科
Journal of Cataract & Refractive Surgery	Preloaded injector for intraocular lens implantation without the use of ophthalmic viscosurgical devices	Kimiya Shimizu	北里大学眼科
神経眼科	肥厚性硬膜炎	西元久晴	北里大学眼科
臨床眼科	動体視力における屈折矯正状態と高次波面収差の影響	川守田拓志	北里大学眼科
日本眼科学会雑誌	Laser in situ keratomileusis (LASIK)後の再近視化眼に対する抗緑内障薬が屈折に及ぼす影響	神谷和孝	北里大学眼科
臨床眼科	後房型有水晶体レンズ挿入眼における調節前後でのvaultingの変化	筒井健太	北里大学眼科
Vision 2008	Magnification ratios and working distances of "Head and Attachment Magnifiers" made by Eschenbach	Uozato H	北里大学眼科
臨床眼科	前房内硝子体脱出	永野幸一	北里大学眼科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol	Crystalline lens changes in porcine eyes with implanted phakic IOL(ICL) with a central hole	Tetsu Shiratake	北里大学眼科

(眼科計 10件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
眼科プラクティス(22.抗加齢眼科学)	モノビジョン	清水公也	北里大学眼科
IOL&RS	新しい予防法Ocular Response AnalyzerTM	神谷和孝	北里大学眼科
IOL&RS	Ocular Response Analyser TMによる円錐角膜眼の角膜生体力学特性の測定	大本文字	北里大学眼科
IOL&RS	角膜耳側切開白内障手術における術後眼内炎の発症率.	神蔵陽子	北里大学眼科
British Journal of Ophthalmology	Possible mechanism of intraoperative floppy iris syndrome: a clinicopathological study	Goseki T	北里大学眼科
Journal of Refractive Surgery	Implantable Collamer lens for hyperopia after radial keratotomy	Kazutaka Kam	北里大学眼科
American Journal of Ophthalmology	Effects of Antiglaucoma Drugs on Refractive Outcomes in Eyes with Myopic Regression after Laser In Situ Keratomileusis	Kazutaka Kam	北里大学眼科
臨床眼科	視覚障害者における視覚障害等級と生活の質(QOL)評価	柳澤美衣子	北里大学眼科
あたらしい眼科	ロービジョン患者の疾患別不自由度の特徴	柳澤美衣子	北里大学眼科
眼科臨床紀要	ステレオ眼底カメラの使用経験	金上貞夫	北里大学眼科

(眼科計 10件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
IOL&RS	コンサルテーションコーナー:回答2	神谷和孝	北里大学眼科
神経眼科	Intraoperative Floppy Iris Syndrome	後関利明	北里大学眼科
American Journal of Ophthalmology	Time Course of Accommodation After Implantable Collamer Lens Implantation	Kamiya K	北里大学眼科
Journal of Refractive Surgery	Influence of Age on Ocular Wavefront Aberration Changes with Accomodation	Yoshihiko Iida	北里大学眼科
眼科ケア	波面センサーの結果のみかた	相澤大輔	北里大学眼科
体の不思議⑩ 健康不思議発 券ニュース	涙の働きと、子どもたち目に迫る危険	後関利明	北里大学眼科
体の不思議⑩ 健康不思議発 券ニュース	目の表面に傷ができたのはなぜ？	後関利明	北里大学眼科
体の不思議⑩ 健康不思議発 券ニュース	目の乾きを防ぐために目の環境を見直しましょう	後関利明	北里大学眼科
体の不思議⑩ 健康不思議発 券ニュース	涙は目の表面を守るバリアー	後関利明	北里大学眼科
神経眼科	序論:瞳孔と2人の偉大な研究者	石川均	北里大学眼科

(眼科計 10件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
神経眼科	The Integrated Control of Arousal and Pupil Function Role of the Noradrenergic Locus Coeruleus 覚醒と瞳孔機能の統合制御, ノルアドレナリン作動性Locus Coeruleus(LC)の役割	石川均	北里大学眼科
神経眼科	Irradiance Detection by New Photoreceptors in the Mammalian Retina(Roberts J Lucas)	浅川賢	北里大学眼科
神経眼科	Clinical Implication of New Aspects of the Pupil Light Reflex Medicated by Melanopsin Containing Retinal Ganglion Cells メラノプシン含有網膜神経節細胞由来の対光反応の臨床応用 (Randy H. Kardon and Aki Kawasaki)	石川均	北里大学眼科
神経眼科	瞳孔を考慮した白内障手術—人工虹彩挿入術と瞳孔形成術—	天野理恵	北里大学眼科
神経眼科	日常視時における瞳孔径の年齢変化	張冰潔	北里大学眼科
Kitasato Medical Journal	Differences of summation across locations and conditions for the development of local binocular visual field summation	Yayoi Yamakawa	北里大学眼科
眼科9月臨時増刊号「眼疾患アトラス」	眼内レンズ偏位	山根史佳	北里大学眼科
眼科9月臨時増刊号「眼疾患アトラス」	水晶体融解緑内障	庄司信之	北里大学眼科
Ophthalmic Research	Involvement of Retinal Neurons and Pigment Epithelial Cells in a Murine Model of Sandhoff Disease	Masahiko Takano	北里大学眼科
Exp. Eye Res	Relaxing effect and mechanism of tafluprost on isolated rabbit ciliary arteries	Ishikawa,H	北里大学眼科

(眼科計 10件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Cataract & Refractive Surgery	Comparison of Collamer toric contact lens implantation and wavefront-guided laser in situ keratomileusis for high myopic astigmatism	Kazutaka Kamiya	北里大学眼科
Ocular Surgery News Japan Edition	小規模研究において、ピスコフリーIOLインジェクターシステムは良好な結果を示している	清水公也	北里大学眼科
あたらしい眼科	遠見立体視検査におけるコントラストの影響	藤村美佐子	北里大学眼科
IOL&RS	後房型Phakic IOL	相澤大輔	北里大学眼科
Journal of Refractive Surgery	Phakic Toric Implantable Collamer Lens Implantation for the Correction of High Myopic Astigmatism in Eyes With Keratoconus	Kazutaka Kamiya	北里大学眼科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol	Factors affecting corneal hysteresis in normal eyes	Kamiya K	北里大学眼科
眼科手術	後房型Phakic 眼内レンズ	清水公也	北里大学眼科
Ocular Surgery News Europe/Asia-Pacific Edition	Visco-free IOL injection system shows good results in small study	Kamiya Shimizu	北里大学眼科
IOL&RS	手術器具: Ocular Response Analyzer™	神谷和孝	北里大学眼科
LiSA	総論: 麻酔医に知ってもらいたい眼科手術のポイント	清水公也	北里大学眼科

(眼科計 10件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。



雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Eye	A novel apparatus for testing binocular function using the 'CyberDome' three-dimensional hemispherical visual display system .	Tomoya Handa	北里大学眼科
自律神経	近見反応の縮瞳の役割-特に加齢に関連した機能-	原直人	北里大学眼科
眼科診療のコツと落とし穴3	緑内障の早期発見を目指した新しい視野検査	庄司信行	北里大学眼科
LiSA	麻酔科医に知ってもらいたい眼科手術のポイント	清水公也	北里大学眼科
神経眼科	飛躍するOCTテクノロジー	中西基	北里大学眼科
日本眼科学会雑誌	眼精疲労を有する若年visual display terminal (VDT)作業者に対する屈折適正矯正による調節と自覚症状の変化について	原直人	北里大学眼科
IOL&RS	特集にあたって	小松真理	北里大学眼科
IOL&RS	膨らむインフォームドコンセント	小松真理	北里大学眼科
			北里大学眼科 計8件
			北里大学眼科 合計 78件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限り）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。



2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Surg Today	Diffuse malignant pleural mesothelioma: A multi-institutional clinicopathological study	伊豫田 明	呼吸器外科学
Gen Thorac Cardiovasc Surg	Successful management of postoperative acute respiratory distress syndrome in a patient with lung cancer	伊豫田 明	呼吸器外科学

(呼吸器外科計 2件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Indian Pacing Electrophysiol J 8(2)102-13	Neutral endopeptidase inhibitor suppresses the early phase of atrial electrical remodeling in a canine rapid atrial pacing model.	和泉 徹	循環器内科
Circulation Journal 72(4)515-20	Rationale and Design of a Study to Examine Lower Targets for Low-Density Lipoprotein-Cholesterol and Blood Pressure in Coronary Disease Patients-The Japanese Coronary Artery Disease Study II (JCAD II)	和泉 徹	循環器内科
Journal of the American College of Cardiology 51(24)2329-35	Prognostic Utility of B-type Natriuretic Peptide Assessment in Stable Low-Risk Outpatients With Nonischemic Cardiomyopathy After Decompensated Heart Failure	和泉 徹	循環器内科
J Cardiol 52(2)79-85	Beneficial effects of Waon therapy on patients with chronic heart failure: Results of a prospective multicenter study.	和泉 徹	循環器内科
J Arrhythmia 24(3)133-40	Current status of implantable defibrillator devices in patients with left ventricular dysfunction-The first report from the online registry databa	和泉 徹	循環器内科
J Arrhythmia 24(3)141-48	Effect of nifekalant on life-threatening ventricular arrhythmias in patients with cardiopulmonary resuscitation or during the perioperative sta	和泉 徹	循環器内科
Circulation Journal 73(6)1020-27	Dose-response effects of bepridil in patients with persistent atrial fibrillation monitored with transtelephonic electrocardiograms: a multicenter, randomized, placebo-controlled, double-blind study (J-BAF Study).	和泉 徹	循環器内科

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
北里医学	北里大学NICUにおける長期入院患者の現状	劔持学、長谷川豪、伊藤尚志、狐崎雅子、野渡正彦、石井正造	小児科
日本新生児医学会雑誌	超低出生体重児17例に施行した胸腔鏡下動脈管閉鎖術の経験：インドメタシン投与群との比較	劔持学、宮地鑑、狐崎雅子、伊藤尚志、長谷川豪、野渡正彦、石井正造	小児科
日本周産期・新生児医学会雑誌	TRH負荷試験による早産児甲状腺機能の評価	伊藤尚志、横田行史、下浜真理子、田久保憲行、大津成之、狐崎雅子、劔持学、長谷川豪、野渡正彦、松浦信夫、石井正造	小児科
日本小児救急医学会雑誌	腎・心臓弁のドナーとなった9ヶ月男児例	林初香、上田康久、福島崇義、守屋俊介、河島雅到、相馬一玄、星ゆかり、高橋恵、石井正造	小児科

(小児科計 4件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pediatr Cardiol	Warfarin therapy for giant aneurysm prevents myocardial infarction in Kawasaki disease.	Sugahara Y, <u>Ishii M</u> , Muta H, Iemura M, Matsuishi T, Kato H.	小児科
J Nephrol	Similarities between N-glycan glycoform of tonsillar IgA1 and that of aberrant IgA1 abundant in IgA nephropathy patient serum	Iwanami N, Iwase H, Takahashi N, Kato K, Itoh A, Takatani T, Makita S, Kobayashi Y, Okamoto M, Nakamura S, Hiki Y, <u>Ishii M</u> .	小児科
J Pediatr Gastroenterol Nutr	Abnormal fecal lactobacillus flora and vitamin B12 deficiency in a patient with short bowel syndrome	Hojo K, Bando Y, Itoh Y, Tkemoto N, <u>Ishii M</u> .	小児科
Pediatric Health	State-of-art basic and clinical science of Kawasaki disease	Wu MH, Nakamura Y, Burns JC, Rowley AH, Takahashi K. Newburger JW, <u>Ishii M</u> , McCrindle BW.	小児科
Pediatr Int	Secondary osteoporosis in long-term bedridden patients with cerebral palsy.	Iwasaki T, Takei K, Nakamura S, Hosoda N, Yokota Y, <u>Ishii M</u>	小児科
Japan Emerg Infect Dis.	Pediatric pneumonia death caused by community-acquired meticillin resistant staphylococcus aureus	Ito T, Iijima M, Fukushima T, Nonoyama M, <u>Ishii M</u> , Baranovich T, Otsuka T, Takano T, Yamamoto T	小児科

(小児科計 6件)

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Anticancer Drugs.	Prediction of the effect of capecitabine in gastric cancer by immunohistochemical staining of thymidine phosphorylase and dihydropyrimidine dehydrogenase.	小泉和三郎 他	消化器内科
Gastrointest Endosc.	Clinical outcomes of endoscopic oblique aspiration mucosectomy for superficial esophageal cancer.	田邊 聡	消化器内科
Radiother Oncol	A phase I trial of definitive chemoradiotherapy with docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil (DCF-R) for advanced esophageal carcinoma: Kitasato digestive disease & oncology group trial (KDOG 0501).	樋口勝彦 他	消化器内科
Journal of Gastroentero logy	Intrahepatic distant recurrence after radiofrequency ablation for a single small hepatocellular carcinoma: risk factors and patterns.	奥脇裕介 他	消化器内科
Kitasato Med J	Roles of AT2 receptor signaling in ascites accumulation and intraperitoneal bleeding in a mouse peritoneal carcinomatosis model	中谷研斗 他	消化器内科
Jpn J Clin Oncol	A phase II study of sequential methotrexate and 5-fluorouracil chemotherapy in previously treated gastric cancer: a report from the Gastrointestinal Oncology Group of the Japan Clinical Oncology Group, JCOG 9207 trial.	小泉和三郎 他	消化器内科

(消化器内科計 6件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Psychiatry and Clinical Neurosciences	The relationship between patient characteristics and psychiatric day care outcomes in schizophrenic patients	山本賢司	精神神経科
PSYCHIATRY AND CLINICAL NEUROSCIENCES	No association between the ryanodine receptor 3 gene and autism in a Japanese population	山本賢司	精神神経科
PSYCHIATRIC GENETICS	Association study of the commonly recognized breakpoints in chromosome 15q11-q13 in Japanese autistic patients.	山本賢司	精神神経科
Neuropsychopharmacol	Association of the neuronal cell adhesion molecule (NRCAM) gene variants with autism.	山本賢司	精神神経科
ストレス科学	広汎性発達障害の子どもをもつ母親のソーシャルサポートの検討	山本賢司、井上勝夫	精神神経科
医療法人弘徳会 愛光病院平成19年度病院年報	Aripiprazoleへの置換後に肺動脈血栓症を併発した統合失調症の2症例	山本賢司、井上勝夫	精神神経科
American Journal of Medical Genetics PartB, Neuropsychiatric Geneticss	Association Study of 15q11-q13 Maternal Expression Domain in Japanese Autistic Patients	山本賢司	精神神経科
ストレス科学	乳癌確定診断時の心理的反応と感情抑制傾向について	山本賢司	精神神経科
北里医学	緩和ケア領域における怒りの問題とその対処	山本賢司	精神神経科
日本社会精神医学会雑誌	乳がん確定診断前後の心理反応と特性不安との関係について	山本賢司	精神神経科
Japanese Bulletin of Social Psychiatry	Trait anxiety and emotional response before and after breast cancer diagnosis	山本賢司	精神神経科
神奈川県精神医学会誌	精神科身体合併症病棟入院患者の臨床的特徴について	山本賢司	精神神経科



SUPPORTIVE CARE IN CANCER	Psychological characteristics and subjective symptoms as determinants of psychological distress in patients prior to breast cancer diagnosis.	山本賢司	精神神経科
こころの科学	小児期の発達障害	井上勝夫	精神神経科
老年精神医学雑誌	【高齢者の身体的心氣的訴え】高齢者の口腔内セネストパチー	宮地英雄	精神神経科

(精神神経科計 3件) (精神神経科計15件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



2. 論文発表等の実績 (1)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neurol Med Chir (Tokyo)48:95- 98, 2008	Auditory alert system for fluorescence-guided resection of gliomas	Utuki S, Oka H, Miyajima Y, et al	脳神経外科
Neurol Med Chir (Tokyo)48:191- 194, 2008	Supratentorial craniotomy using a threadwire saw: technical note	Shimizu S, Utsuki S, Suzuki S, et al	脳神経外科
Minim Invasive Neurosurg 51: 119-123, 2008	Course of the bony canal associated with high-positioned supraorbital foramina: an anatomic study to facilitate safe mobilization of the supraorbital nerve	Shimizu S, Utuki S, Suzuki S et al	脳神経外科
Minim Invasive Neurosurg 51: 124-125, 2008	Modified irrigation hose placement in draping for craniotomy: provision of a free space for surgeons: technical note	Shimizu S, Miyazaki T, Suzuki S, et al	脳神経外科
Minim Invasive Neurosurg 51: 329-332, 2008	Bony tunnel formation in the middle meningeal groove: an anatomic study for safer pterional craniotomy	Shimizu S, Hagiwara H, Utuki S, et al	脳神経外科
Interv Neuroradiol 14:; 137-141, 2008	Efficacy of selective transarterial chemotherapy using a port system for angiosarcomas of the face and scalp	Iwamoto K, Suzuki S, Kurata A et al	脳神経外科

(脳神経外科計6件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績 (2)

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Intervent Neuroradiol 14: 179-184, 2008	Relationship between focal inflammation and symptomatic intracranial aneurysms	Suzuki S, Kurata A, Iwamoto M, et al	脳神経外科
Minim Invas Neurosurg	Endovascular surgery using stents for vertebral artery dissecting aneurysms and a review of the literature	Suzuki S, Kurata A, Iwamoto M, et	脳神経外科
Neuroradiology Published on line July 2009	Direct Puncture approach of the extraconal portion of the superior ophthalmic vein for carotid cavernous fistulae	Kurata A, Suzuki S, Iwamoto K	脳神経外科

(脳神経外科計 3件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
European Journal of Dermatology 18 (5), p. 518-523 2008	Hair follicle stem cell marker nestin-expression in epidermal and follicular tumors.	Kanoh Maho, <u>Yasuyuki</u> <u>Amoh*</u>	皮膚科
Cell Cycle 7 (12), p. 1865-1869, 2008	Multipotent hair follicle stem cells promote repair of spinal cord injury and recovery of walking function.	<u>Yasuyuki</u> <u>Amoh*</u> Kensei Katsuoka	皮膚科
Cell Cycle 8 (1), p. 176-177, 2008	Human and mouse hair follicles contain both multipotent and monopotent stem cells	<u>Yasuyuki</u> <u>Amoh*</u> Kensei Katsuoka	皮膚科
Current Phamaceutical Design 14(36), p. 3810-9 , 2008	Color-coded fluorescent protein imaging of tumor angiogenesis: the angiomouse® models	<u>Yasuyuki</u> <u>Amoh*</u> Kensei Katsuoka	皮膚科
Journal of Dermatology 36(1), p. 1-9, 2009	Multipotent nestin-expressing hair follicle stem cells	<u>Yasuyuki</u> <u>Amoh*</u> Kensei Katsuoka	皮膚科
生化学 Vol. 80, No. 7 p. 638-641 2008	皮膚毛包幹細胞による再生医療の可能性	<u>天羽 康之</u> , 勝岡 憲生	皮膚科

(皮膚科計 6件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Neurol Sci, 267: 41-47, 2008	Histopathology of central nervous system lesions in Behçet's disease.	Hirohata S	膠原病感染内科
Rheumatol Int, 28: 673- 676, 2008	Comparison of trimethoprim-sulfamethoxazole and aerosolized pentamidine for primary prophylaxis of Pneumocystis jiroveci pneumonia in immunocompromised patients with connective tissue disease.	Hirohata S	膠原病感染内科
Arthritis Rheum. 58:1130-1135, 2008	Association of cerebrospinal fluid anti-NR2 glutamate receptor antibodies with diffuse neuropsychiatric systemic lupus erythematosus.	Hirohata S	膠原病感染内科
Allergol Int. 57:147-155, 2008	Enhanced Production of IgE Anti-Japanese Cedar Pollen Specific Antibodies by Peripheral Blood B Cells from Patients with Japanese Cedar Pollinosis.	Hirohata S	膠原病感染内科
J Neurol Sci, 272:71-6, 2008	Reversible focal neurological deficits in systemic lupus erythematosus: Report of 2 cases and review of the literature.	Hirohata S	膠原病感染内科
J Neurol Sci, 272: 99-105, 2008	Effect of infliximab in progressive Neuro-Behçet's syndrome.	Hirohata S	膠原病感染内科

(膠原病感染内科計 6件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int Immunopharmacol, 9: 86-90, 2009	Differential influences of bucillamine and methotrexate on the generation of fibroblast-like cells from bone marrow CD34+ cells of rheumatoid arthritis patients.	Hirohata S	膠原病感染内科
膠原病の診断、治療開始とフォローの実際—Behcet病.	膠原病の診断、治療開始とフォローの実際—Behcet病.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
内科, 101: 732-744, 2008	座談会 わが国における膠原病診療の現状と展望.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
総合臨床 57(増刊): 1327-1329, 2008	新版 処方計画法 VIII. リウマチ結合織疾患 166. ベーチェット病.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
ドクターサロン, 52:330-333, 2008	ベーチェット病患者の妊娠.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
最新医学 63: 887-888, 2008	全身性エリテマトーデス(SLE)-病態解明と治療の新たな展開- 序論	廣畑 俊成	膠原病感染内科
最新医学 63: 939-946, 2008	全身性エリテマトーデス(SLE)-病態解明と治療の新たな展開- 中枢神経ループス	廣畑 俊成	膠原病感染内科

(膠原病感染内科計 7件)

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
内科、 101:1445- 1448, 2008	内科必携画像診断-Imaging Revolution- VI. 膠原病・免疫・ア レルギー 10. Behcet病.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
臨床リウマチ 20: 107-112, 2008	CNSループスの病態と診断・治療.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
Medical Practice、 25:1365-1368, 2008.	膠原病に併発する中枢神経障害とそ の治療.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
Medico 39: 452-462, 2008	膠原病診療の最近の進歩と今後の展 望.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
リウマチ科 40: 519-515, 2008	リウマチ性疾患診療に関連した神経 病変の診断と治療：神経ペーチェッ ト.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
小児リウマチ 1: 15-20, 2008	抗リウマチ薬の基礎と臨床- 作用機 序から使い方まで-.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
内科 103: 349-354, 2009.	目で見える症例 混合性結合組織病 (肺高血圧症) .	田中 住明	膠原病感染内科

(膠原病感染内科 7件)



2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本医事新報 4421: 44-47, 2009	全身性エリテマトーデスの長期管理.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
日本臨床免疫 学会会誌, 32: 43-47, 2009	全身性エリテマトーデスとプロテオ ミクスを用いた自己抗原の解析.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
リウマチ科 41: 121-126, 2009	抗NR2グルタミン酸レセプター抗体と 中枢神経ループス.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
医学書院、 p. 616-619, 2008.	14. 膠原病及び類縁疾患 全身性エリ テマトーデス. 「今日の治療指針 2008」	廣畑 俊成	膠原病感染内科
文光堂、 p. 420-423, 2008.	4. 自己免疫疾患・アレルギー疾患・ 免疫不全. VIII. ベーチェット病. 「わかりやすい内科学」第3版	廣畑 俊成	膠原病感染内科
別冊 日本臨 床、日本臨床 社、p. 312- 315, 2008	IX. 大動脈疾患 血管Behçet病. 新 領域別症候群No. 6 「循環器症候群 (第2版)III」	廣畑 俊成	膠原病感染内科
ホームメイ カ 新版「家 庭医学大事典 初版」p. 2030- 2033, 2009.	免疫異常による病気 全身性エリテ マトーデス.	廣畑 俊成	膠原病感染内科

(膠原病感染内科計 7件)



2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
「新臨床内科学（第9版）」、 医学書院、 p. 1477-1483、 2009.	第11章 リウマチ性疾患、アレルギー性疾患、免疫不全 9. Behçet（ベーチェット）病（Behçet症候群）.	廣畑 俊成	膠原病感染内科
Rheumatol Int, 29(4):441-3. 2009	Henoch-Schönlein pupura complicated by perforation of the gallbladder.	橋本 篤	膠原病感染内科
北里医学, 38 : 130-133, 2008	原因不明の血球貪食症候群および低 蛋白血症の1症例	橋本 篤	膠原病感染内科
臨床リウマ チ, 20 : 302- 309, 2008	全身性エリテマトーデスに合併しス テロイド大量療法が奏功した骨髓線 維症の1例	橋本 篤	膠原病感染内科
強皮症のすべて が分かる本, 75- 78, 2008	消化管障害、強皮症のすべてが分かる 本、文光堂	遠藤 平仁	膠原病感染内科
臨床研修プラッ クテイス、30- 35, 2008	ステロイドの使い方のコツ2注射剤の使い 方、研修医のためのステロイドの使い方- 内用、注射、外用	遠藤 平仁	膠原病感染内科
リウマチ科、337 -342、2008	強皮症腎、強皮症の病態とマネージメン ト、	遠藤 平仁	膠原病感染内科

(膠原病感染内科計 7件)

(膠原病感染内科合計 34件)

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床体液35	オメプラゾールにて著明な高カリウム血症を呈した短腸症候群を伴う末期腎不全の一症例.	中野素子	腎臓内科
腎炎症例研究 25	Wire loop様病変の光顕所見を呈した非SLEの一例	佐野隆	腎臓内科

(腎臓内科計 2件)

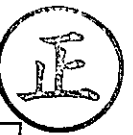
- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Res Adv in Urol	Recent advances in molecular markers for bladder cancer.	松本 和将	泌尿器科
INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY	Reclassification of the current tumor, node, metastasis staging in pT3 renal cell carcinoma	藤田哲夫	泌尿器科
UROLOGY	Loss expression of uroplakin III is associated with clinicopathologic features of aggressive bladder cancer.	松本和将	泌尿器科
UROLOGY	Distribution of lymphatic Vessel Network in Normal Urinary Bladder	松本和将	泌尿器科
CANCER LETTERS	Identification of copy number alterations and its association with pathological features in clear cell and papillary RCC	松田大介	泌尿器科
日本泌尿器科学会雑誌	前立腺癌のアンドロゲン除去療法におけるビスフォスフォネートの臨床的意義	木村将貴	泌尿器科
今日の移植	腎移植におけるミコフェノール酸モフェチルの血中濃度管理とその有用性	吉田一成	泌尿器科

(泌尿器科計 7件)

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Interact. CardioVasc. Thorac. Cardiovasc. Surg	Miniaturized cardiopulmonary bypass system in neonates and small infants.	宮地 鑑	心臓血管外科
Interact. CardioVasc. Thorac. Cardiovasc. Surg	Thermal coronary angiography in pediatric coronary artery bypass grafting.	宮本隆司	心臓血管外科
J. Cardiothorac. Surg.	Higher cerebral oxygen saturation may provide higher urinary output during continuous regional cerebral perfusion.	宮本隆司	心臓血管外科
Ann. Thorac. Surg.	Optimal conduit size of the extracardiac Fontan operation based on energy loss and flow stagnation.	板谷慶一	心臓血管外科
体外循環技術	小児開心術における予防的抗菌薬の体内動態に関する検討	古平 聡	心臓血管外科
北里医学	小児ペーシングリード破損および植込み部位の検討	須藤恭一	心臓血管外科
日本冠疾患学会誌	CABG後遠隔期グラフト評価におけるMDCTの有用性	鳥井晋造	心臓血管外科
体外循環技術	小児無輸血開心術における血液希釈と周術期因子との関連についての検討	古平 聡	心臓血管外科
日本冠疾患学会誌	C A B G 後遠隔期グラフト評価における M D C T の有用性.	鳥井晋造	心臓血管外科

(心臓血管外科計 9件)

論文発表等の実績総合計 233件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



(様式第 13-2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1 名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 () ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (4) 名 兼任 (1) 名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療の安全性の向上に関すること (診療録や看護記録への記載内容の確認と指導、 事故発生時の対応状況についての確認と指導) 安全管理に係る教育・研修の企画・運営に関すること 医療事故及びインシデントの収集・調査・分析・フィードバックに関すること リスクマネジャーとの連絡調整に関すること 医療安全マニュアル・医療安全ハンドブックの編集・発行に関すること リスクマネジメント委員会の運営に関すること 医療訴訟、和解に係る事務に関すること その他、医療事故の防止、医療安全管理に関すること 	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 安全管理に関する基本的考え方 (基本理念、基本姿勢) 安全管理のための委員会、組織に関する基本的事項 安全管理のための職員研修に関する基本方針 医療安全の確保を目的とした改善のための基本方針 医療事故発生時の対応に関する基本方針 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 患者からの相談への対応に関する基本方針 	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療事故防止活動全般に関すること 医療事故発生に伴う対応に関すること 医療事故調査によるフィードバックに関すること 	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 0 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 医療安全講演会 (リスクマネジメント 2 回・院内感染防止対策 2 回。計 4 回開催) 新規採用者研修 (研修医・コメディカルのオリエンテーション時の研修。4 月実施) ME 機器取扱い講習会 (4 月実施) 看護師フォローアップ研修会時の研修 その他 (KYT 研修、薬剤適正使用研修等) 	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 安全管理者による情報の収集・調査・分析及び改善評価 リスクマネジメント委員会による改善具体策の検討・実施 改善具体策のフィードバック (リスクマネジメントニュースによる周知、 各種マニュアルの作成、機器・器具類の改善等) 	



(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部長 高橋 修
閲覧担当者氏名	総務課長 潮田 好美
閲覧の求めに応じる場所	総務課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	76.7%	算定期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日
算 出 根 拠	A:紹介患者の数	24,997人	
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数	14,374人	
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数	3,159人	
	D:初診の患者の数	41,063人	

(注)1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延べ数を記入すること。

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染管理室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEセンター部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。



(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 藤井 清孝
管理担当者氏名	事務部長 高橋 修

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		事務部 医事課 診療情報管理課	初回受診時に、1患者1番号制で受診登録番号(患者番号7桁)を設定。 中間位桁分類法を採用し、保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	人事課	
	閲覧実績	診療情報管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	患者支援センター部	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
確保の状況 規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者支援センター部 総務課 医事課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。



(様式第 13-2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (1名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (1名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 無
<ul style="list-style-type: none">所属職員： 専任 (4) 名 兼任 (1) 名活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療の安全性の向上に関する事 (診療録や看護記録への記載内容の確認と指導、事故発生時の対応状況についての確認と指導)安全管理に係る教育・研修の企画・運営に関する事医療事故及びインシデントの収集・調査・分析・フィードバックに関する事リスクマネージャーとの連絡調整に関する事医療安全マニュアル・医療安全ハンドブックの編集・発行に関する事リスクマネジメント委員会の運営に関する事医療訴訟、和解に係る事務に関する事その他、医療事故の防止、医療安全管理に関する事	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<ul style="list-style-type: none">指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">安全管理に関する基本的考え方 (基本理念、基本姿勢)安全管理のための委員会、組織に関する基本的事項安全管理のための職員研修に関する基本方針医療安全の確保を目的とした改善のための基本方針医療事故発生時の対応に関する基本方針医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針患者からの相談への対応に関する基本方針	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none">活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医療事故防止活動全般に関する事医療事故発生に伴う対応に関する事医療事故調査によるフィードバックに関する事	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 0 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容<ul style="list-style-type: none">医療安全講演会 (リスクマネジメント 2 回・院内感染防止対策 2 回。計 4 回開催)新規採用者研修 (研修医・コメディカルのオリエンテーション時の研修。4 月実施)ME 機器取扱い講習会 (4 月実施)看護師フォローアップ研修会時の研修その他 (KYT 研修、薬剤適正使用研修等)	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機関内における事故報告等の整備 (有 無)その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">安全管理者による情報の収集・調査・分析及び改善評価リスクマネジメント委員会による改善具体策の検討・実施改善具体策のフィードバック (リスクマネジメントニュースによる周知、各種マニュアルの作成、機器・器具類の改善等)	

院内感染対策のための体制の確保に係る措置



① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 ・ 無																				
<p>・ 指針の主な内容：平成 21 年 10 月 1 日現在</p> <p>(1) 『院内感染対策のための指針』は、平成 19 年 4 月 1 日付で制定した。</p> <p>(2) 同指針には、院内感染対策に関する基本方針、院内感染管理体制、院内感染対策のための教育・研修、感染症発生状況報告体制、院内感染発生時の対応、患者などに対する当該方針の閲覧に関する基本方針を定めている。</p>																					
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回																				
<p>・ 活動の主な内容：平成 20 年度 1 年分</p> <p>(1) 院内感染防止委員会（ICC）は、原則として毎月第 4 水曜日午後 5 時から開催した。</p> <p>(2) ICC の議題は、院内感染対策や感染症検査の扱い、ICC 運営や院内感染対策チーム（ICT）などの運営に関すること、ICT 活動報告、定期報告、その他の感染に関する議題を検討した。</p> <p>(3) 定期報告は、前月の分離菌や薬剤耐性菌、法令規定の感染症病原菌の検出状況、ウイルス抗原検査状況、大学病院で実施した東病院の感染症関連検査報告、感染症届出及び病原体検出速報、職員の針刺等事故発生状況報告、厨房等従事者の定期糞便検診結果、環境定期検査報告である。</p>																					
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 6 回																				
<p>・ 研修の主な内容：平成 20 年度 1 年分</p> <p>(1) 採用時研修は、新入職員は入職時年 1 回、医師・看護師は随時実施した。</p> <p>(2) 全職員を対象とする講演会は年 2 回開催した。また、全職員対象の講演会は、ビデオによる講演会を各 3 回開催した。</p>																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>会場</th> <th>内容</th> <th>対象</th> <th>演者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H200528</td> <td>合同講義室ほか</td> <td>改訂院内感染の手引</td> <td>全職員</td> <td>感染管理室 室長補佐</td> </tr> <tr> <td>H200613</td> <td>臨床講義室</td> <td>抗菌薬の適正使用</td> <td>医師</td> <td>高山 陽子</td> </tr> <tr> <td>H201008</td> <td>合同講義室ほか</td> <td>国内外での話題の感染症</td> <td>全職員</td> <td>国立感染症研究所 感染症情報センター長 岡部 信彦</td> </tr> </tbody> </table>		開催日	会場	内容	対象	演者	H200528	合同講義室ほか	改訂院内感染の手引	全職員	感染管理室 室長補佐	H200613	臨床講義室	抗菌薬の適正使用	医師	高山 陽子	H201008	合同講義室ほか	国内外での話題の感染症	全職員	国立感染症研究所 感染症情報センター長 岡部 信彦
開催日	会場	内容	対象	演者																	
H200528	合同講義室ほか	改訂院内感染の手引	全職員	感染管理室 室長補佐																	
H200613	臨床講義室	抗菌薬の適正使用	医師	高山 陽子																	
H201008	合同講義室ほか	国内外での話題の感染症	全職員	国立感染症研究所 感染症情報センター長 岡部 信彦																	
<p>(3) 病院内全職員を対象に、手洗い検証セットを利用して「手洗い技術チェック」を実施した。</p> <p>(4) リンクスタッフの会合を 10 回開催し、感染対策のポイント研修を盛り込み実施した。</p>																					
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況																					
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有 ・ 無） 平成 21 年 10 月 1 日現在</p> <p>(1) 病原体検出時の臨床検査部門からの検査結果速報による把握（届出感染症や大学病院指定感染症の病原体、多剤耐性菌、教職員・学生より食中毒の原因病原体検出時に速報する）。</p> <p>(2) 臨床診断による感染症・食中毒発生報告</p> <p>(3) サーベイランスによる発生把握（手術部位、血管内・尿道留置カテーテル、人工呼吸器関連肺炎）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染対策は、平成 19 年 4 月設置の病院長直轄の「感染管理室」を中心に対応・対策した。</p> <p>(2) 『院内感染防止対策の手引 2008 年版（第 17 次改訂版）』を平成 20 年 4 月 1 日付で発行した。</p> <p>(3) 新型インフルエンザ対策行動計画第 1 版を制定した（平成 21 年 2 月 5 日）。</p> <p>(4) 毎週水曜日、ICU・小児病棟の感染症回診を、年間を通じて感染や病原体等に係る質問に対してコンサルテーションした。</p> <p>(5) ICT 活動は、毎週 1 回環境、抗菌薬・耐性菌や血液由来菌の巡視を実施した。</p> <p>(6) 年間を通じて、耐性菌感染対策、インフルエンザや感染性胃腸炎の流行時の対策、結核対策、食中毒対策（教職員や学生）などを実施した。</p> <p>(7) 院内イントラネット環境に『院内感染対策のための指針』、『院内感染防止対策の手引』、『かんせん情報誌』、『感染症診療のための臨床分離菌情報』等を掲示し、24 時間閲覧や情報提供に務めた。</p>																					



医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 11回
・ 研修の主な内容： ○研修医 医薬品の安全使用について 正しい処方入力について ○医師 添付文書の読み方について ○医師・看護師 TDM の考え方について ○看護師 簡易懸濁方について、IV トレーニング、 薬の基本、麻薬の適正使用及び適正管理 ○技師 医薬品の取り扱い ○事務職 医薬品の法的位置付けと取り扱い ○全職種 簡易懸濁方の現状とこれからについて	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 ((有)・無) ・ 業務の主な内容： ○別紙『医薬品安全使用のための業務手順書』目次参照	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○医療安全管理室との定期的な情報交換・収集を行っている(1回/週)。 ○リスクマネジメント委員会の下部組織である投薬・注射 WG で医薬品の安全管理について検討している(1回/月)。 ○医薬品保管の表示の改善 ○薬事委員会下部組織の医薬品適正使用推進委員会、医薬品適正使用検討委員会、抗生物質検討委員会にて、医薬品使用に関する情報を収集・検討し、適正使用に繋げている。	



医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有) 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年100回以上
・ 研修の主な内容： 人工呼吸器の取り扱いについて 閉鎖式保育器の取り扱いについて 血液浄化装置の取扱いについて 除細動器の取り扱いについて 補助循環装置の取り扱いについて 輸液シリンジポンプの取り扱いについて など	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 ((有) 無) ・ 保守点検の主な内容： 定期点検 (外観点検, 機能点検, 作動点検, 精度点検, 電気的安全性点検) 終了時点検 (作動点検, 外観点検) 日常点検 (ラウンド点検, 作動点検, 使用法確認) 故障時点検 (外観点検, 機能点検, 作動点検) など	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有) 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： リスクマネジメント委員会での報告 (医療機器安全性情報の徹底, 院内院外インシデントの報告・検討) 機器設備委員会の開催 (院内インシデントの報告・検討) 院内広報誌 (リスクマネジメントニュースなど) での広報 (医療機器安全性情報等) 医療機器安全使用研修会の開催・修了証の発行 など	